

最近の種馬鈴しょ検疫について

植物防疫所では国内検疫の一つとして、国内で生産される種苗の検疫を行っている。馬鈴しょは、この検査を受けるべき種苗に指定されている（本誌第62号参照）。

種馬鈴しょの生産は、一般的には種苗管理センターから配布された原々種を系統的に栽培し、増殖を行う。この間、栽培地において植物防疫官による検査が実施されている。

検査の対象となる病害虫は、ウイルス病、輪腐病菌、ジャガイモシストセンチュウ等の9種であり、いずれも栄養繁殖により拡がる重要な病害虫である。このうち、ジャガイモシストセンチュウは、我が国では1972年に北海道で初めて発見された。その後、1992年に長崎県、2003年に青森県で発見され、現在3道県の37市町村で発生が確認されている。発生したほ場では、種馬鈴しょの栽培をしないよう指導

している。また、輪腐病は、1947年に北海道で発生が確認されて以来、各地に発生し、大きな被害を与えた重要な病害であった。1952年には451haが本病により不合格となるなど甚大な被害を記録した年もあったが、1977年を最後に検査では発見されていない。

本制度の開始当初、検査合格率（面積）は原種で62.5%、採種で48.4%（1952年）であったが、その後合格率は上昇し、1962年は各々97.4%、92.8%、そして1993年以降は原種、採種ともに99%以上の合格率を維持している。

この成績は、生産環境の改善に努めてきた生産者及び地域関係者の不断の努力によるものである。

今後とも生産者及び地域関係者に引き続きのご尽力をお願いするとともに、種馬鈴しょ検疫も時代の変化に適応し、よりよい種苗を生産できる制度とする必要がある。

表 種馬鈴しょ申請面積及び合格率の推移

内 訳	年次	1952年	1962年	1972年	1980年	1993年	2000年	2004年
申請面積 (a)		1,394,962	708,054	632,038	721,028	676,454	634,995	585,837
合 格 率 原種 (%)		62.5	97.4	97.3	99.1	99.1	99.8	99.9
採種 (%)		48.4	92.8	93.9	98.6	99.4	99.6	99.5
合格数量 (t)		96,442	131,408	138,184	171,385	182,580	184,879	179,732

海外のニュース ニュージーランドにおけるアジア型マイマイガの根絶

ニュージーランドでは1990年代初めに船舶や航空コンテナからマイマイガの卵塊が相次いで発見され、侵入のリスクが高まったことから、フェロモントラップによる侵入警戒調査が開始された。

本種は極めて広食性の森林害虫であり、地理的個体群の間において、行動や生態が異なることが報告されている。アジア型の成虫は雌雄ともに飛翔活性が高く、また、幼虫はヨーロッパ型に比べてより広い範囲の植物を加害することなどから北米やニュージーランドでは特に侵入が警戒されている害虫である。

2003年3月26日、ニュージーランド北島北中央部に位置するハミルトン市において、1頭のマイマイガ雄成虫がフェロモントラップに誘引された。捕獲された標本の状態が良好であったことから、国内で羽化した個体であると考えられた。ニュージーランド政府は本種の国内定着を防ぐためBT剤（formulation Foray 48B）を用いた航空防除、フェロモントラップ調査の

強化、ハミルトン市からの植物類の持ち出しの制限などからなる根絶プログラムを開始した。

捕獲された成虫はDNA鑑定の結果、アジア型のマイマイガ（Asian biotype, *Lymantria dispar*）と同定され、侵入の原因は日本から輸入された中古車に付着した卵塊であると推測された。

航空防除後、2005年5月26日、二世世代相当期間での誘殺が見られなかったことから生物保護局は公式にマイマイガの根絶宣言を行った。今回の根絶プログラムの成功はハミルトン市の人々の協力とTAG（Technical Advisory Group）による科学的助言によるところが大きい。なお、ニュージーランドでは引き続き本種の侵入警戒調査が行われている。

（参考）BIOSECURITY NEW ZEALAND. ISSUE61:18-19

発行所 横浜植物防疫所
〒231-0003 横浜市中区北仲通5-57 横浜第二合同庁舎 ☎(045)211-7155
発行人 奥 富 一 夫
編集責任者 君 島 悦 夫
印刷所 内村印刷株式会社